



高輪だより

平成29年12月号
港区立高輪幼稚園
園長 柿沼 敦子

もうすぐ子ども会

園長 柿沼 敦子

12月2日、3日は子ども会です。11月中旬から各学級で劇遊びをしたり、大道具や小道具を製作したりして取り組んできました。

過日、幼児が列になり入場する場面がありました。先頭Aちゃんは、前日練習した通りに進み始めました。すぐ後ろのBちゃんは、前日お休みをしていました。BちゃんはAちゃんの進み方が違っていると思い、後ろから「Aちゃん、こっちだよ」と自分が思う方向を示しました。戸惑ってしまったのはAちゃん。自分が正しいと思っていたことに不安を感じました。ふと足を止めましたが、担任に合っているよと促され安心して進みました。私はAちゃんが不安な表情だったのでその後を見守りました。並び終わった直後、BちゃんはAちゃんの方を向き、申し訳なさそうに「ごめんね」と小声でささやきました。Aちゃんは、それをすぐに受け入れ「いいよ」と返し笑顔になりました。その後、二人ともにこやかな表情で歌を歌いました。Bちゃんは「間違えてしまったのは私だった。Aちゃんにあやまろう」と幼児ながらに相手の気持ちを思い、素直に謝ったのでしょう。なんと温かいシーンでしょう。私の心は、たちまちぼかぼかしました。人は様々な思いを経験して相手のことを思う心が育ちます。二人の心が優しく豊かに成長していることが大変嬉しかったです。

3歳、4歳、5歳の発達の違いは、各学年の劇の様子によく出ています。5歳になると幼児同士、担任とのやり取りにも「阿吽（あうん）の呼吸」が生じ、成長を感じます。相手がいるからこそその行為で、相手とのつながりの深さや信頼を思い知らされます。相手を思いやる気持ちが育っていなければ成り立ちません。すなわち「阿吽の呼吸」とは、「誰かと物事をするときに考えや気持ち、行動がぴったりと合う」という意味です。ぴったりと分かり合えてなおかつ行動できるのは、とても素晴らしいことです。5歳児はそのような場面をたくさん感じるができるでしょう。4歳は時々出てきます。3歳はまだまだですが無いわけではありません。子どもたちの劇を思う存分に楽しむ中でそんな姿も感じていただけたら幸いです。

神社で見る狛犬（こまいぬ）は、空想上の守護獣像です。口をあけているほうが「あ」閉じているほうが「うん」で一對のものです。来年は成年です。保護者の皆様、地域の皆様、来年も本年同様、狛犬のように「阿吽の呼吸」で子どもたちの成長を幼稚園と一緒に支えていただきますようよろしくお願い申し上げます。

<子ども会お面>

3歳児うさぎ組(ぬりえ絵)



4歳児うめ組(絵の具画)



4歳児もも組(絵の具画)



5歳児すみれ組(張り子:立体)

